

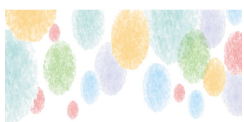
# じょうこうじ 掟光寺だより

令和5年  
6月号

## 行事案内

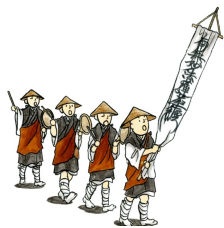
●6月8日(木)  
「宗祖報恩講」

13時30分から



## あんぎゃ たくはつ 行脚・托鉢について

6月8日の夕方には日蓮宗福井県中部青年会さまからのご依頼を頂きました平吹地区行脚がありまして、今回はそのお話をしたいと思います。



### 【行脚とは?】



行脚とは文字通り「脚(足)」で「行」く旅と書き、元々、お坊さんが修行のために諸国を巡って布教して歩くことを指しました。

日蓮宗では、よく唱題行脚と言います。うちわ太鼓を叩くながらお題目をお唱えして歩きます。福井県中部青年会では、お檀家さんのお家にお邪魔し、玄関先にて、先祖供養のご回向やご家族のご祈願を行います。

「行」とは読めないですね。これは唐音と言って中国語の発音(平安時代中期以降から江戸時代末期にかけて入ってきた漢字の読み方)だそうです。この読み方を使うものには他にも「行灯」「行火」でも使われます。

イメージとしてはお遍路さんですね。行脚中は野宿をしたり、民家の部屋などを借りて仮眠し、ひたすら歩きます。その間は托鉢で食を得ます。一方で一般の人々は修行している人に対して布施・

喜捨することによって功德を得るという感じが元々の行脚です。

現在では、各地にある何かを見たりすることのたもととして使われたりします。例えば、おわび行脚、選挙活動の全国行脚、温泉行脚などです。



### 【托鉢とは】

托鉢とは鉢(お椀)のようなものを持って町を歩き、信心の布施を頂戴する修行を指します。実は托鉢は古代インドの修行方法で仏教特有の修行ではないのですが、お釈迦さまが推奨された修行の1つであり、今では仏教の代表的な修行方法の1つです。日本では、歳末助け合い托鉢や曹洞宗の雲水さんがされる寒行托鉢が有名でしょう。上座部仏教であるタイやラオスなどでは現在もこの托鉢で多くの修行僧が生活をしています。

【托鉢中の僧侶はなぜお礼を言わない?】

托鉢している僧侶に布施・喜捨をしても「ありがたうございませう」とは言いません。本来であれば、人から頂いた時には感謝の言葉を述べるのが正しい作法です。ではなぜそれをしないのでしょうか?

仏教では、貧しさから抜け出すことができない人は、これまで他人に施しをしてこなかったからだと考えます。貧しい人は生活に追われ、いつもあくせくしています。そのため、他人を思いやる余裕もなく、自分のことばかり考えているから、その悪循環から抜け出せないと考えられるのです。

修行僧たちが托鉢で布施をいただくに行くのは、貧しい人々に施しをするチャンスを与えていることとなります。

お釈迦さまのお話の中で、弟子たちに托鉢をお金のある家を回ってはならない、貧しい家に行きなさいとわざわざ貧しい集落へ托鉢に行かせるエピソードがあります。

お釈迦さまにとって托鉢は、お金や食べ物を集めるのが目的ではなく、わざわざ貧しい集落に托鉢に回ることで、彼らから「与えることの大切さ」を教えることだったのです。人に与えることによつて、与えることの大切さを知ることが出来るのです。この「与えるから与えられる」のがこの世の理、仏教の原則なのです。

